学芸員ってどんな仕事？ セミナー「博物館、学芸員のリアル」

↑学生からゲストスピーカーへ質問

←セミナー会場の様子

→小田さん

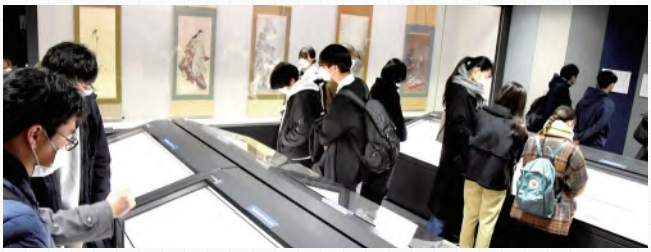
博物館の専門職員である学芸員の仕事について現場で働く人の話を聞く学芸員課程セミナー「博物館、学芸員のリアル」が昨年 12 月 17 日（土）に生田キャンパスで開催され、学芸員課程の履修生など 122 名が参加した。2018 年に続き２度目の開催だ。

ゲストスピーカーの幕田淳子さん（H29 文学研究科歴史学専攻修了）は日野市教育委員会ふるさと文化財課学芸係として関わった埋蔵文化財発掘調査、小学校との連携で実施した教育事業、国登録有形文化財の保全活動などの経験を学生に語った。学生からの「学生のうちにしておいた方がいいことは？」といった質問に対しては、「専門を大事にしつつ幅広い知識を身に付けること」「運転免許の取得」「趣味、特技を大事にすること」を挙げた。

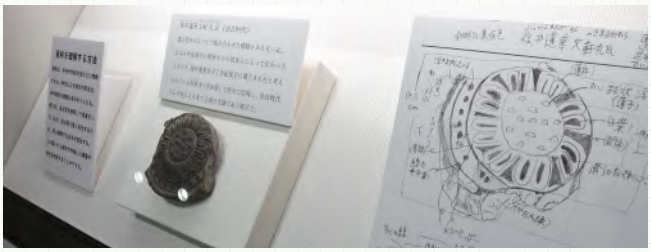
もう一人のゲストスピーカー、大磯町郷土資料館の國見徹館長は、博物館の運営やコロナ禍への対応について紹介。学生から「学芸員として求められる人材像」を問われると、「自分の専門を持つこと。それをバックボーンとし、柔軟性を持って様々なことに取り組む必要がある」と答えた。

セミナーに参加した小田晃平さん（文4）は「学芸員と一口に言っても博物館から教育委員会までいろいろな活動の場があることが分かり、学芸員を目指すうえで選択の幅が広がった」と語る。

博物館さながら、学内での展示実習



↑生田２号館の展示実習室での展示



↑配置や説明文など全て学生が手掛けた

30 年以上の歴史を持ち、これまで二千人を超す学芸員資格取得者を育成してきた専修大学の学芸員課程では、人文系の歴史、考古、民俗、美術史を専門とする実習を重んじた授業を展開。昨年 12 月 17 ～ 22 日には生田２号館の展示実習室で、博物館実習の授業の一環として、学生が「博物館実習のリアル」と題した展示を行った。

学生たちは学芸員課程で培った知識を活かし、どのような流れで見せたら分かりやすく、興味を持たれるか、資料の並べ方や説明パネルに工夫を凝らした。教職員や学生など多くの人に見られることで色々な気づきがあったようだ。

↑総代の小城さん

↑総代の藁科さん

専大での学びを糧に社会へ 卒業式・学位記授与式

卒業式・学位記授与式が日本武道館で３月22日（水）に開催され、満開の桜の下、約4000名の卒業生が社会への一歩を踏み出した。午前の部の総代を務めた小城まどかさん（R5経営卒）は「コロナ禍という前例のない道を進んできた私たちだからこそ、新しい時代を生きる力や可能性を信じて、未来への一歩を踏み出す」と、午後の部の総代を務めた藁科佳奈さん（R5人間卒）は「不確実な未来でも、周囲と手を取り合うことで、前に進んでいけると信じている。互いを尊重しながら支え合える社会を築いていきたい」と大学関係者、父母を前に未来への希望を力強く語った。また、育友会から記念品として多機能ペンが卒業生に贈られた。

↓学術、体育で優れた成績を収めた学生50名に川島記念賞が授与された

スポーツでの活躍を称える体育会表彰式

第62回体育会表彰式が、３月17日（金）に生田校舎で開催された。育友会賞にはスピードスケート部の森重航さん（R5経営卒）と笠原光太朗さん（経営２）が選ばれ、吉村信子育友会長より賞状が渡された。

体育会表彰式に続き、国際競技大会で高位の入賞を果たした選手を称える川島記念特別功労賞授与式が執り行われ、スピードスケート部の上記２名に加え、蟻戸一永さん（経営４）、野々村太陽さん（経営４）、谷垣優斗さん（経営３）に賞が授与された。

↑スピードスケート部の学生と吉村育友会長（右から３人目）ら